

清水和彦・黒川幸雄 責任編集

理学療法 MOOK 13 QOL と理学療法

大橋ゆかり

(茨城県立医療大学保健医療学部)

リハビリテーションにおいてはいうに及ばず、理学療法領域でも QOL の向上が目標に掲げられるようになって久しい。しかし、理学療法士として QOL に立ち向かおうとすれば、困惑を覚える人も多いのではないだろうか。それは、1 つには本書の冒頭でも述べられているように「観測する者がどのような視点・事象で観測するかによって、QOL は蜃気楼のように輪郭も持たず、位置も定まらない」からであり、もう 1 つには理学療法と QOL の直接的な結びつきが見えにくいからだろう。

本書の第 1 章「QOL とは何か」は第 1 の疑問への答え、すなわち QOL の輪郭やリハビリテーションにおける位置づけを示しながら、QOL の理念を大きく捉えて解き明かす章である。第 2 章「QOL の評価」では QOL 評価に用いられる 18 種類の既存の尺度が紹介される。しかも、各尺度に関する情報入手先が付記されているという親切的な構成だ。また、新たな QOL

尺度開発の手順が論じられ、玄人向きではあるが興味深い。第 3 章「理学療法の実践と QOL」は、前述の第 2 の疑問への答え、すなわち理学療法はいかにして QOL 向上に介入できるかに取り組んだ章である。ここで取り上げられるのは、脳血管障害、脊髄損傷、運動器疾患、呼吸・循環障害、高齢者、小児を始めとする 13 の障害領域における実践である。各領域において QOL を評価するための指標、QOL と直結する障害の特徴、介入上の重要事項、満足度を高める生活スタイルなどが、その領域のスペシャリストによって解説される。

理学療法士が患者様の ROM を改善することも QOL のどこかに貢献しているに違いない。しかし、その道筋は遠すぎて凡人には見通すことができない。本書の責任編集者である清水和彦氏は序文で「本書ではスピリチュアリティという深淵の領域には踏み込まない。この領域に手を出せるだけの技量がまだ理学療法には備わっていないからだ」と厳しく指摘しているが、本書が理学療法士として QOL の深淵に向かう道筋を示してくれることは間違いない。

●B5 判 208 頁

定価 4,200 円(本体 4,000 円+税 5%)

2006 年 三輪書店・刊